

様式第2号の2（第2条関係）

8年 1月 30日

岩沼市議会議長 酒井信幸 殿

議員氏名 飯塚悦男

調 査 研 究 等 報 告 書

実施期日	8年 1月 23日 (金) ~ 年 月 日 ()
参加者氏名	飯塚悦男
調査地等 及び 調査事項 等	(1) 調査地・研修場所 (株) 廣瀬行政研究所 東京 日時 8年 1月 23日 午前・午後 10時 0分 ~ 17時 20分 調査・研修内容
	(2) 調査地・研修場所 () 日時 年 月 日 午前・午後 時 分 ~ 時 分 調査・研修内容
	(3) 調査地・研修場所 () 日時 年 月 日 午前・午後 時 分 ~ 時 分 調査・研修内容

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

地方議会セミナー報告書

13番 飯塚 悦男

主催 (株) 廣瀬行政研究所

講師 コミュニティ共創コーディネーター 二宮雄岳

議題1. 町内会・自治会のピンチに、どう向き合えばいいだろう

1. 町内会・自治会で今何が起きているのだろう

(1) 会員の高齢化等で積極的に活動する会員が少なく、役員の成り手もなく、一部の住民に負担がしわ寄せされている。

(2) 今、時代も社会も大きく変化し、地域の状況も変わっているのに、これまでの自治会、町内会をそのまま残そうとしているのではないか。

2. 地域コミュニティが弱まる背景、構造的な課題を考えよう

(1) 人口構成、世帯のあり方、就労環境も大きく変わっている

(2) 従来地域では「生まれながらの地域に長く住む住民」が多く、中長期にわたる関係性の中で合意の形成が図られてきたが、今は移動が当たり前。プライバシー保護の高い住居やマンションに暮らし、お互いをよく知らないので地域内の関係性は希薄に地域の思い入れも育ちづらい。

(3) 従来の地域関係に慣れていて、外から来た人の気持ち、その人への対応ができない

(4) 「そもそも町内会・自治会は何のためにあるのか」

「その取り組みは、何のためにするのか」を地域で考え、それを合意形成し、実現していく動きを生み出すことが必要ではないか。

3. 新しい関わりを増やすために必要な施策は

(1) 地域全体の活性化策

- ① コミュニティ施策の方向性の明確化 ②町内会参加促進の機運醸成 ③加入方法の簡素化④マンション住民への特化施策 ⑤担い手育成、お試し参加の機会提供 ⑥他市区町村や地域の他の自治体・町内会の取組みや事例の共有
- ⑦運営負担軽減 ⑧行政からの依頼事項のガイドライン

(2) 行政による町内会等への支援

- ① 財政的な支援 ②課題解決支援 ③専門家による支援
- ④デジタル化支援 ⑥外部人材・プロボノ活用

4. 町内会・自治会に求められる DX（デジタル活用）推進

(1) デジタル化検討の背景

- ① 町内会役員の人手不足（高齢化・若手不足） ②各種案内
や緊急連絡に手間・時間を要する ③各種広報誌（情報）
が読まれているか（伝わっているか） ④回覧板の回送に
日数を要する（情報は常にHOTか） ⑤町内会活動（意
義）が上手く伝わらない ⑥町民の反応はどうだろうか
⑦直接会わないと話が進まない（紙のやりとり）

（２）現実的な取り組み

- ① 何もせずに、ただ「デジタル化は高齢者には無理」と決め
つけていないか ②今、高齢者のスマホ教室、LINE教
室はとても人気がある

5. 町内会・自治会の現状を見直すために「運営の見える化」を

- （１）町内会・自治会の考える課題は住民の理解不足
- （２）住民の感じる課題は、参加しやすさ、運営状況
- （３）活動の運営には、活動の考え方、運営者・参加者の意
識などが反映
- （４）運営の見える化を变化のきっかけに

6. 今求められる町内会・自治会の運営のアップデート

- （１）目指すのは退会する人を止めるのではなく、「入りたくな

る町内会、自治会」になること

(2) 強みと見直しポイントを自覚し、共感される発信を増やす

議題2. 地域ぐるみでつながりを再構築する

エリアプラットフォーム戦略

1. 地域コミュニティをつくるとは、どういうこと？

- ① 地域のコミュニティを支えてきたのは、長い時間をかけて培われた「人と人の関係」でこれからも「ひととひと」という、つながりの本質は変わらないが社会やライフスタイルの変化を考えると、今までの長い時間をかけた深い共有の関係構築を前提にするのは難しい。
- ② 自治会・町内会ありきではなく、まずお互いに「地域の人に会おう」「顔見知りになる」「相手のことがわかる」関係がないまま入る・入れるのは難しい。
- ③ 地域・企業などのしっかりした基盤のうえで、長い時間をかけて、経験を共有し、お互いを深く理解しあうことでつながり、助け合うコミュニティ
- ④ 社会が変化し、価値観も多様化する中、人々が思いや分かち

合いたいことを軸に、関係性を育てながら、時々状況に応じて柔軟につながるコミュニティ

2. 人がつながるきっかけとして商店、地元企業。スポーツ、文化

- ① 地域内の関係性の維持・強化に祭礼は「今の地域のつながり」という横軸と「地域の歴史的背景」という縦軸を持つ
- ② 憩いや交流の場、子ども食堂、高齢者や子どもを含めた地域の居場所づくりが、町内会、に限らず、町内会以外の様々な団体（NPO、社会福祉協議会、老人会、ボランティア団体、企業等）個人によって行われています。多様な活動を把握、共有しているか。

3. 縦割りを超え地域全体で動ける「エリアプラットフォーム」

- ① プラットフォームとは分野を超えて出会い継続的に関わり基盤
- ② 前提の全く異なる人が、どうつながれるのか 地域の人と共に考えながら、活動を行う。
- ③ 活動団体のイベントに町内会が協力、団体の仲間も加わり協力関係を構築する。

4. 暮らしたい・働きたい地域へ、コミュニティビジョンを描く

① ビジョン＝これから実現したい姿

(1) これまでよりも、これからに焦点 (2) 新しい状況
を生み出すエネルギーに (3) どちらの方向に向かう
のか、明確にして共有

(2) 現状の問題解決のマイナス思考でなく「こんな未来が
実現してほしいプラスを生む。

5. 町内会・自治会などの既存の仕組みを活かす次世代以降の
進め方

(1) 既存を否定して、次に行くのは望ましくない

① 今までの関係性、知見、ハードなど蓄積があるからこそ、新しい動きができる。②新しい考え・人・状況に、話し合い、プロセスに参加してもらう。

(2) 新しい動きを作るために

① 政策・資源配分（構造レベル） ②関係性やパワーバランス（関係レベル）価値観や思考様式（意識レベル）の
3つのレベルのケアすることが大切

② 話し合い、信頼関係をつくるプロセスを軽んじると、後で余計に時間がかかる。

6、『この街が好きだから守りたい』という人を増やすために

(1) コミュニティを接してきて、思うこと

① 「つながりは」簡単ではない。しかし、思いを持って、
楽しそうに動く人がある。

② 『義務』『やらされ感』で好きを見失う ③ 「このまちが
好き」「自分の好き」を大切にするから、関わる人にあり
がとうと素直に言える。

(2) 「まちを好きになる」って、どういうこと

① 「知る、発見する」=ストーリーを共有する。

② 「「関わる、馴染む」=自分も一員と思える。

③ 「出番がある：役に立つ」=自分が必要とされている。

研修を受けて

従来の町内会、自治会は高齢化、一人暮らしなどで役員の成りてもなく衰退をたどっていく。新しい住民に加入してもらうためには人と人との関わりが大事である。防災上も町内会、自治会は必要であり、運営には行政からの資金面が必要である。雲南市の小規模多機能自治を参考にしてまちづくりを進めなければならない。